

令和8年9月

令和8年	7月	～	9月期	実績
令和8年	10月	～	12月期	見通し

中小企業景況調査報告書

岩手県商工会連合会

主要景況項目の動き.....	2
業況天気図	3
全産業の推移	4
製造業の推移	7
建設業の推移	11
小売業の推移	15
サービス業の推移	19
全産業の過去データの推移	23
* 過去10年間	
〔集計資料〕	

D・Iとは

D・Iとは、ディフュージョン・インデックスの略です。これは、企業経営者の景気動向を表す指標として利用されています。

算出方法は、増加（上昇・好転）企業割合から減少（低下・悪化）企業割合を差し引いたものです。

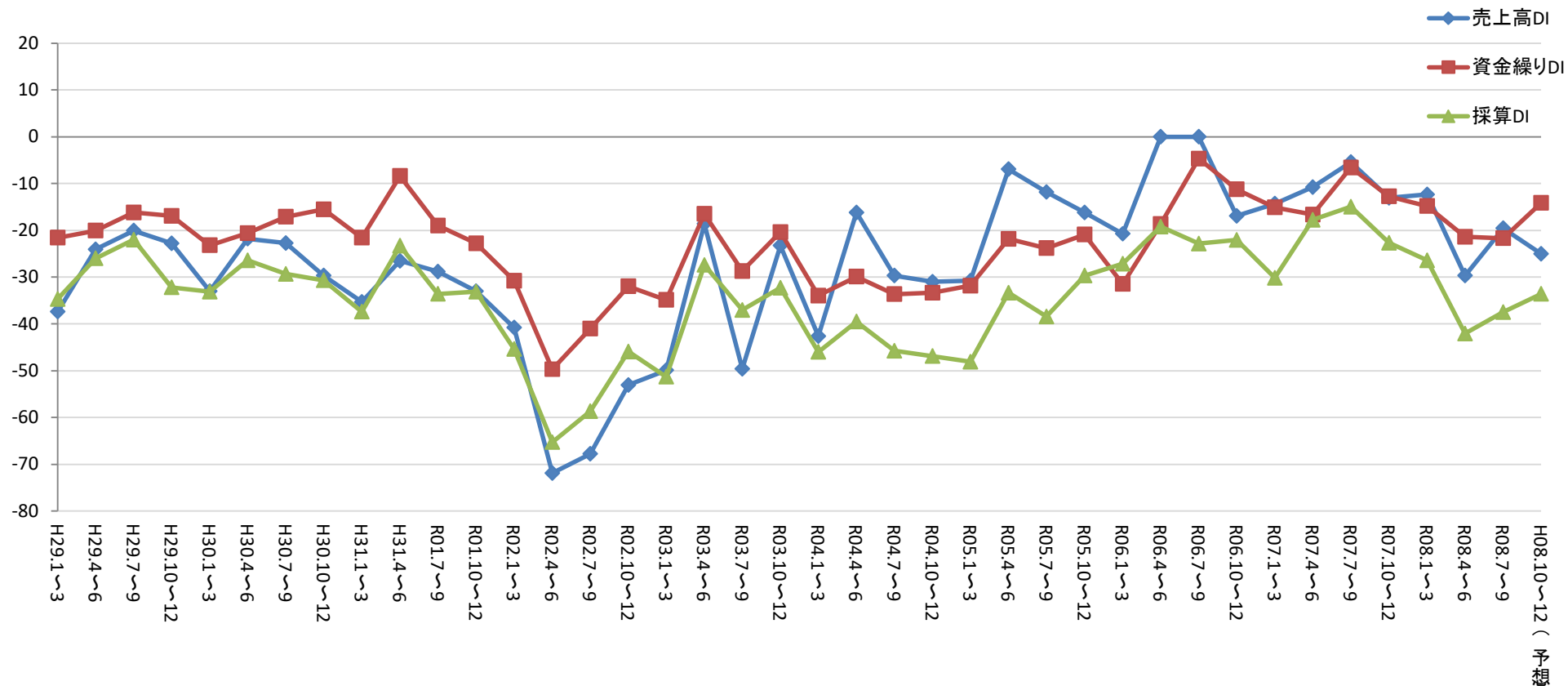
D・Iがプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）、原材料または商品の仕入単価の場合はプラスなら上昇気運、マイナスなら低下気運となります。

プラス、マイナス同数の場合はD・Iはゼロになります。

たとえば、売上高増加企業50%、不変企業30%、減少企業20%の場合、 $D・I = 50 - 20 = 30$ となり、全体として経営者の売上高に対する強気の度合いを表しています。

[岩手県 産業全体]

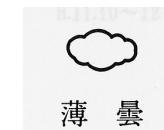
主要景況項目の動き ー前年同期比ー



業 況 天 気 図

期 間 業 種	令和6年 10～12月	令和7年 1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	令和8年 1～3月	4～6月	(今期) 7～9月	(見通し) 10～12月
製 造 業	 曇	 薄 曇	 薄 曇	 薄 曇	 薄 曇	 薄 曇	 曇	 薄 曇	 曇
建 設 業	 曇	 曇	 雨	 曇	 曇	 曇	 雨	 曇	 曇
小 売 業	 曇	 曇	 曇	 薄 曇	 曇	 曇	 曇	 曇	 曇
サ ー ビ ス 業	 薄 曇	 曇	 薄 曇	 薄 曇	 曇	 曇	 曇	 曇	 曇

売 上 高 D I	100.0 ～30.1	30.0 ～10.1	10.0 ～△10.0	△10.1 ～△30.0	△30.1 ～△100.0
表 示	 快 晴	 晴	 薄 曇	 曇	 雨



全産業の推移

売上高

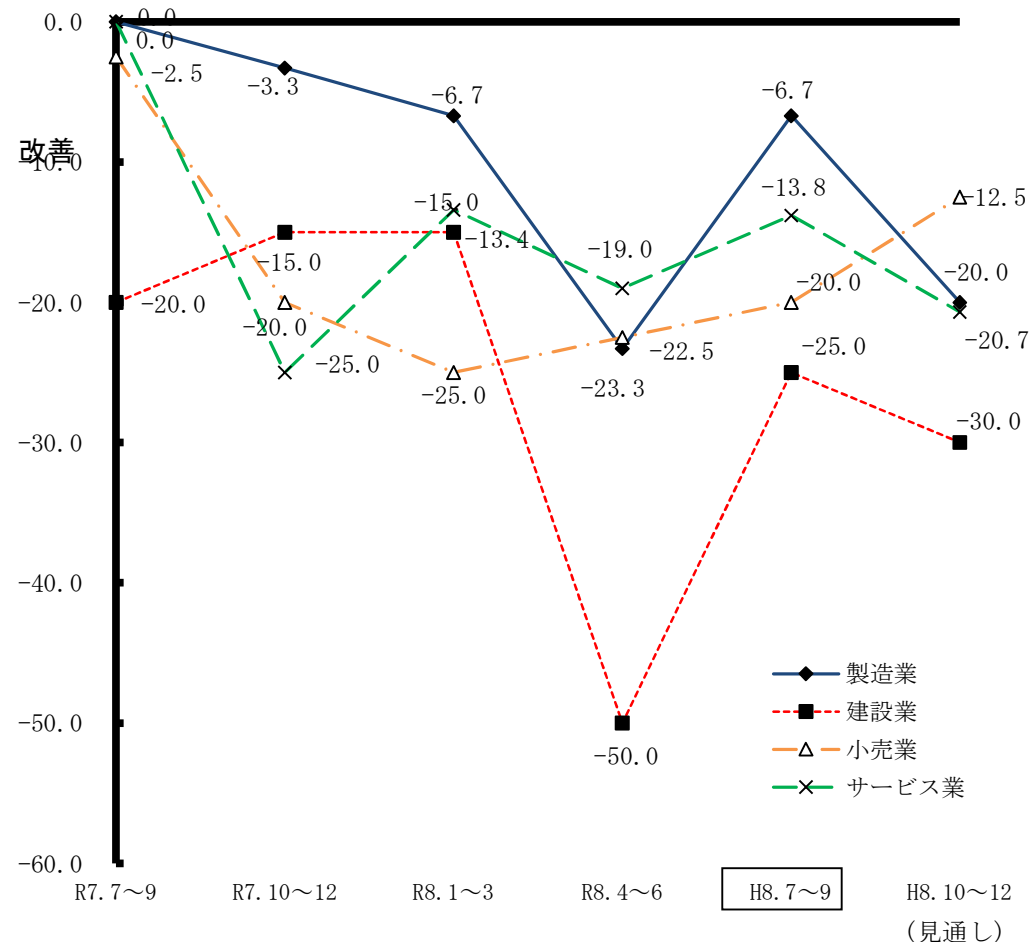
4業種すべてにおいて売上高D・Iが改善 製造業と建設業は大幅に改善

今期の売上高D・Iは、前期まで3期連続して低下していた製造業が下げ止まって上昇に転じました。また、建設業、小売業、サービス業も上昇となりました。

前期まで3期連続して低下していた製造業は下げ止まって上昇に転じ、16.6ポイントの大幅な上昇により△6.7となり、一桁台までマイナス幅を縮小しました。また、前期大幅に低下していた建設業も上昇に転じ、25.0ポイント上昇して△25.0となりました。更に前期低下に転じていたサービス業も上昇となり、5.2ポイント増の△13.8となりました。前期上昇に転じていた小売業は前期に引き続いて2期連続の上昇となり2.5ポイントの上昇により△20.0まで改善しています。

来期は、小売業の上昇基調が続き、3期連続の上昇となることが予想されていますが、製造業、建設業、サービス業の3業種は低下に転じることが見込まれています。

※建設業の売上高は完成工事高



全産業の推移

採 算

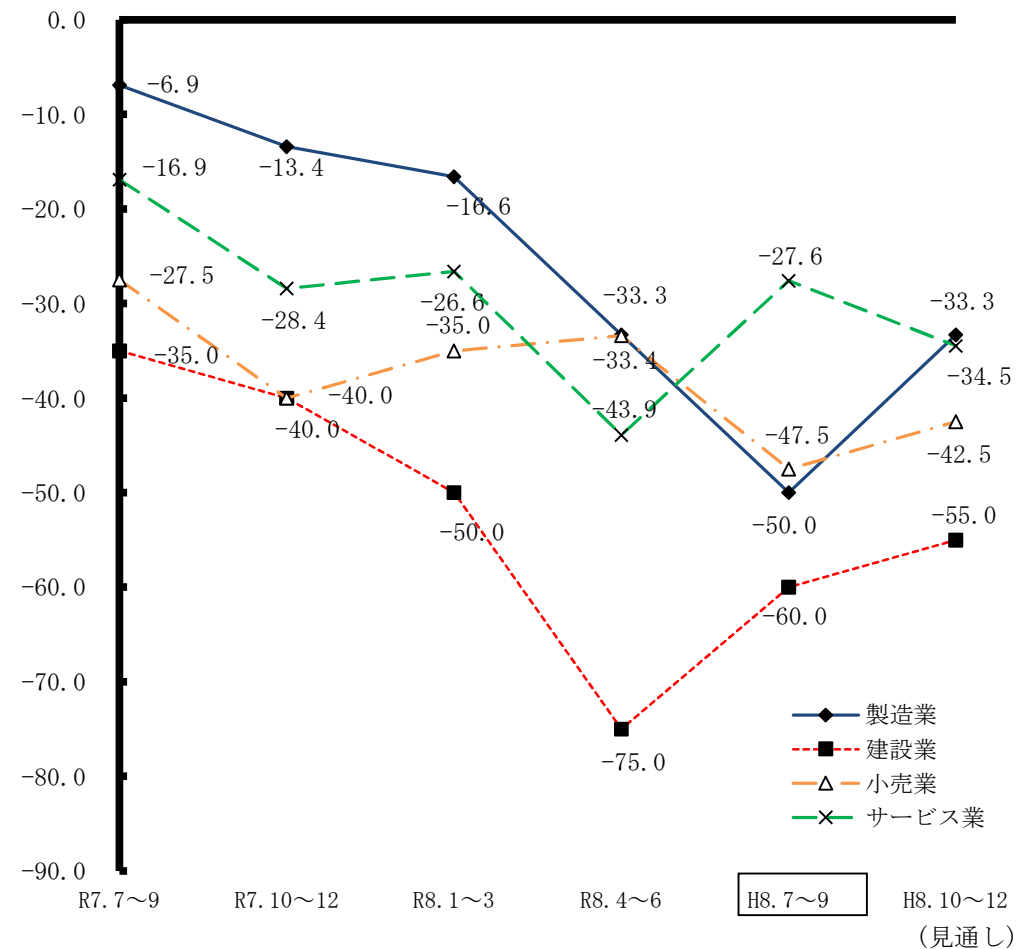
**サービス業、建設業において採算D・Iが改善
製造業、小売業は悪化**

今期の採算D・Iは、前期低下基調にあったサービス業が改善に転じたほか、同じく連続して低下基調にあった建設業も改善となりました。他方、製造業、小売業の2業種は悪化となりました。

サービス業は16.3ポイント上昇して△27.6まで改善、また、建設業も15.0ポイント上昇して△60.0まで回復しました。他方、製造業は4期連続の低下となり16.7ポイント低下して△50.0までマイナス幅を拡大しました。また、前期僅かに改善していた小売業も低下に転じ、14.1ポイント低下して△47.5まで悪化しています。

来期は、悪化基調にあった製造業において採算D・Iの下げ止まり、また、小売業、建設業も改善が見込まれますがサービス業は低下に転ずることが見込まれています。

※採算は各業種とも経常利益



全産業の推移

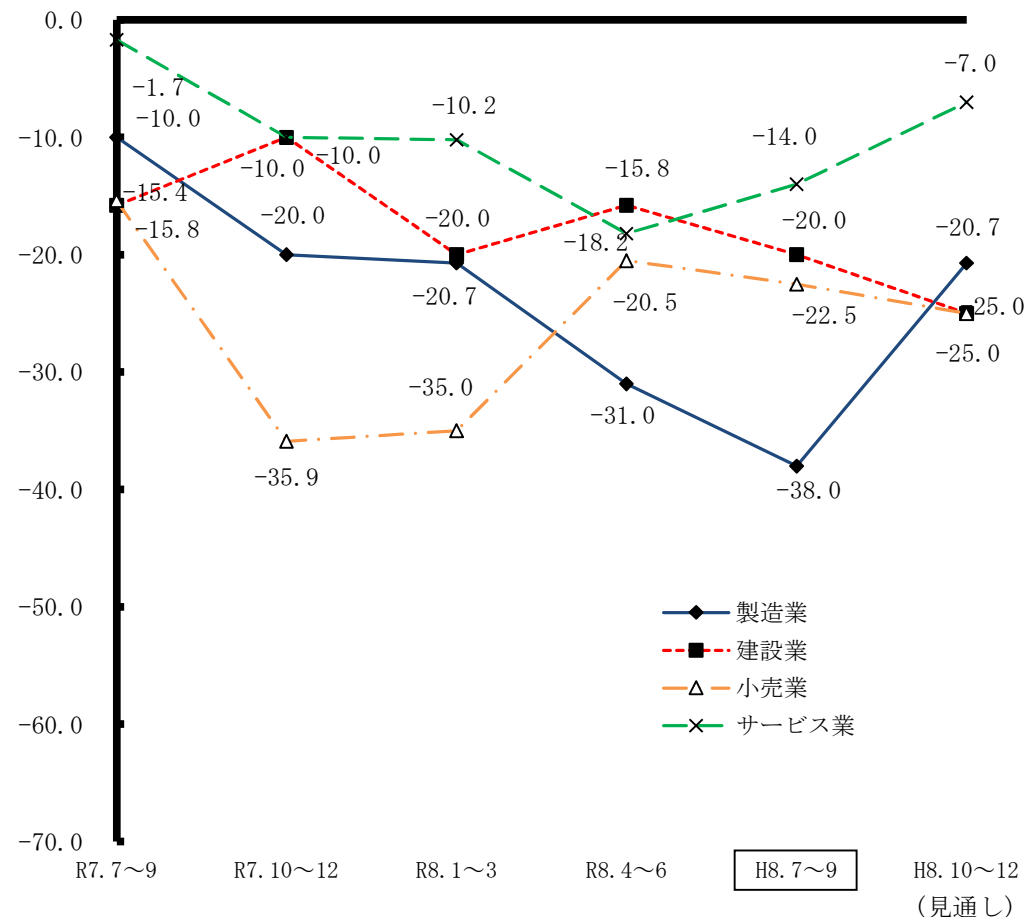
資金繰り

**サービス業において資金繰りD・Iが改善
建設業、小売業、製造業は悪化**

今期の資金繰りD・Iは、サービス業が改善に転じたものの、前期改善していた建設業と小売業が悪化に転じたほか、製造業は4期連続の悪化となって低迷しています。

サービス小売業は4.2ポイントの上昇により△14.0まで改善しました。他方、前期改善基調にあった建設業が低下に転じて△20.0まで悪化しました。また、小売業も2.0ポイントと僅かながら低下して△22.5となりました。製造業は4期連続の悪化となり、7.0ポイント低下して△38.0まで悪化してマイナス幅を拡大しています。

来期は、サービス業が今期に引続き改善することが見込まれるほか、悪化基調にあった製造業が下げ止まって上昇に転じることが見込まれるものの、建設業と小売業は今期に引続き悪化することが予想されています。



製造業の推移

売上高

<今 期>

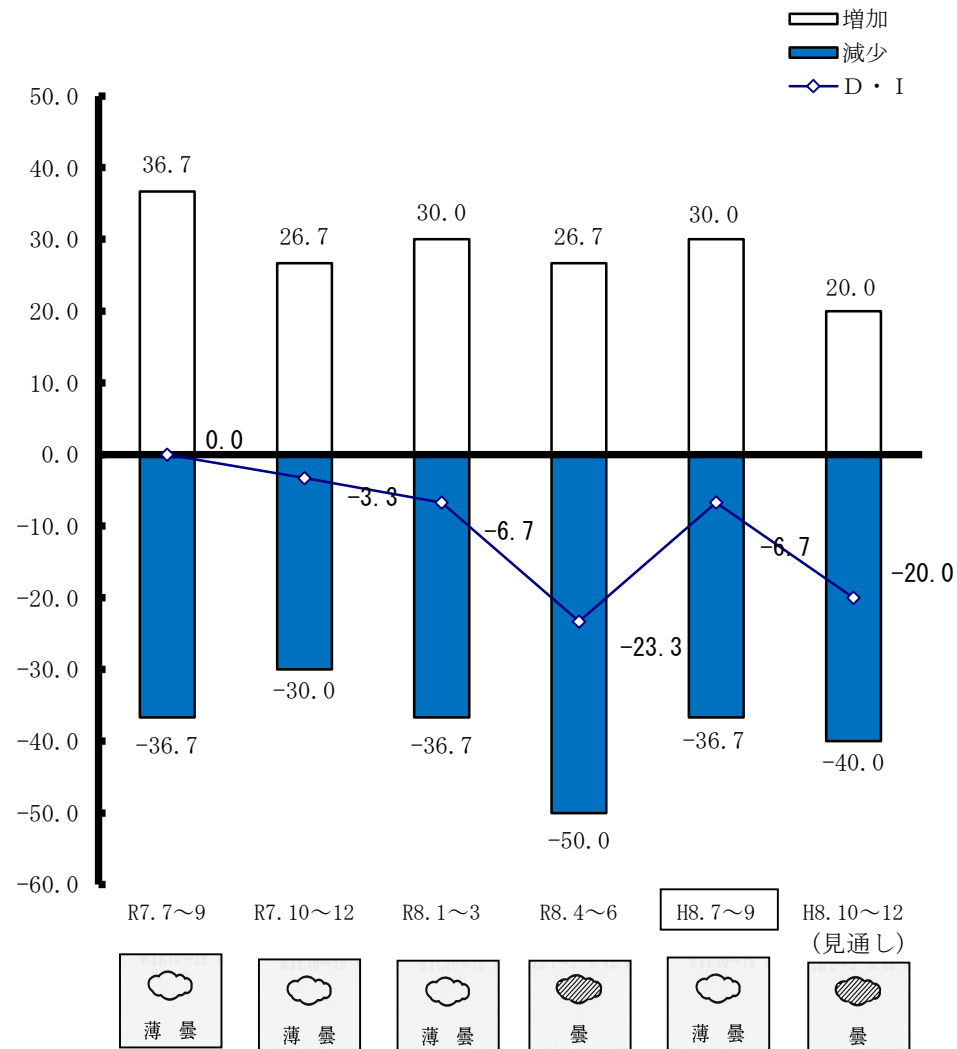


<来期見通し>



今期は、売上高増加企業の割合が3.3ポイント増加し、売上高減少企業の割合が13.3ポイント減少したことにより売上高D・Iは16.6ポイントの大幅な上昇となり、△6.7まで回復しました。

来期は、売上高の増加を予想する企業の割合が減少し、売上高の減少を予想する企業割合が増加することから、売上高D・Iは低下に転じ、景況天気図も引き続き曇となる見通しです。



製造業の推移

採算

<今 期>

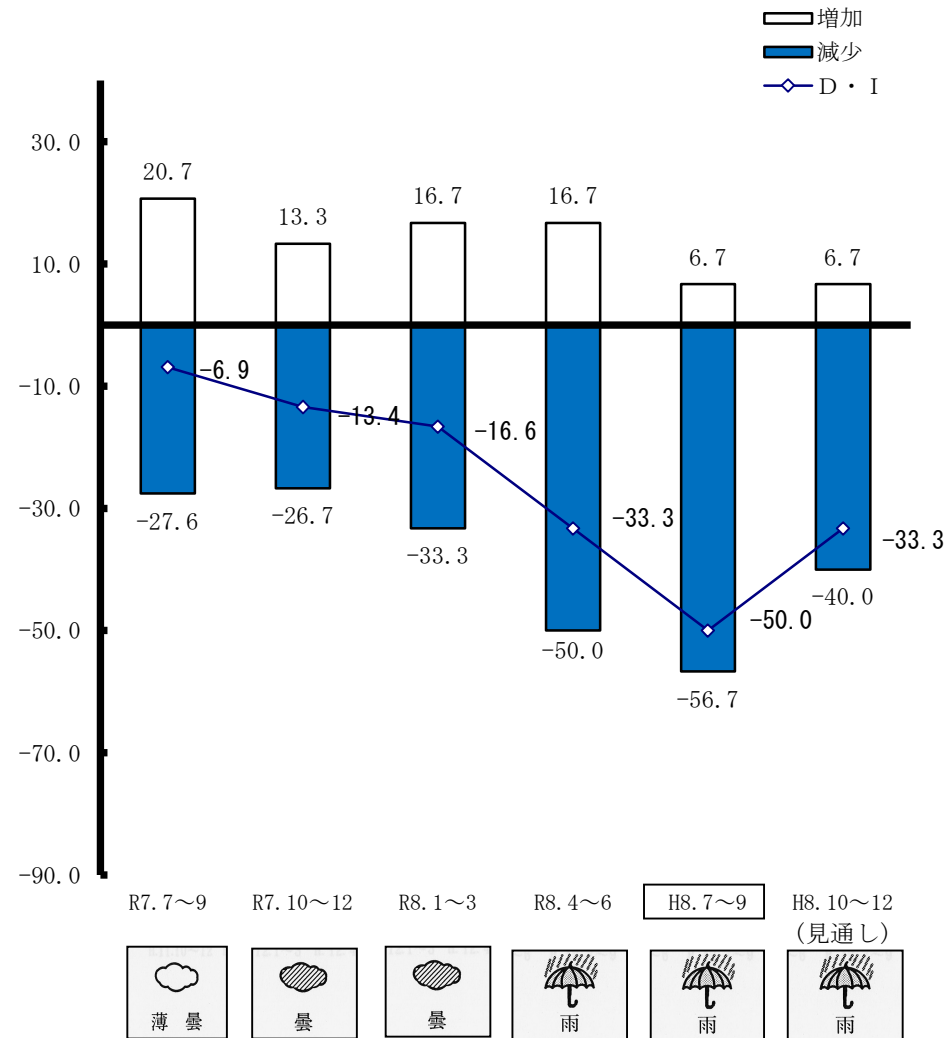


<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業の割合が10.0ポイント減少し、また、採算が悪化した企業の割合が6.7ポイント増加したことにより採算D・Iは16.7ポイント低下して△50.0まで悪化しています。

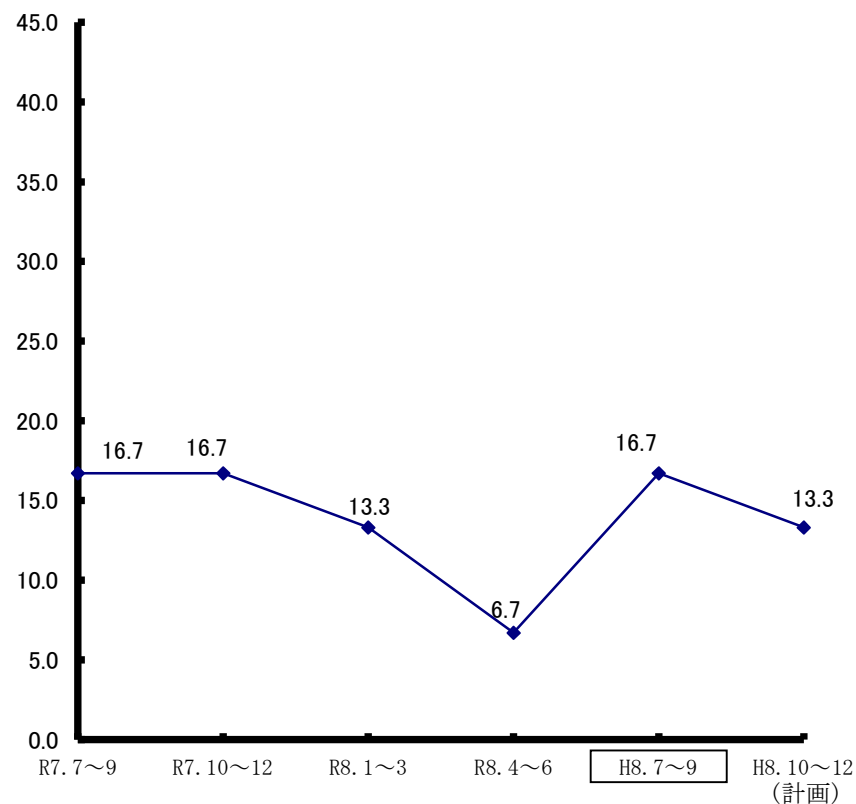
来期は、採算の改善を予想する企業が今期と横ばいにとどまるものの、採算の悪化を予想する企業が減少することから、採算D・Iは改善に転じる見通しです。



設備投資

製造業において設備投資を実施した企業数の割合は、前期から6.6ポイント増加し、16.7まで上昇しています。

来期は、設備投資の実施を予定する企業数の割合が3.4ポイント減少し、設備投資実施予定企業の割合は13.3まで低下する見通しとなっています。



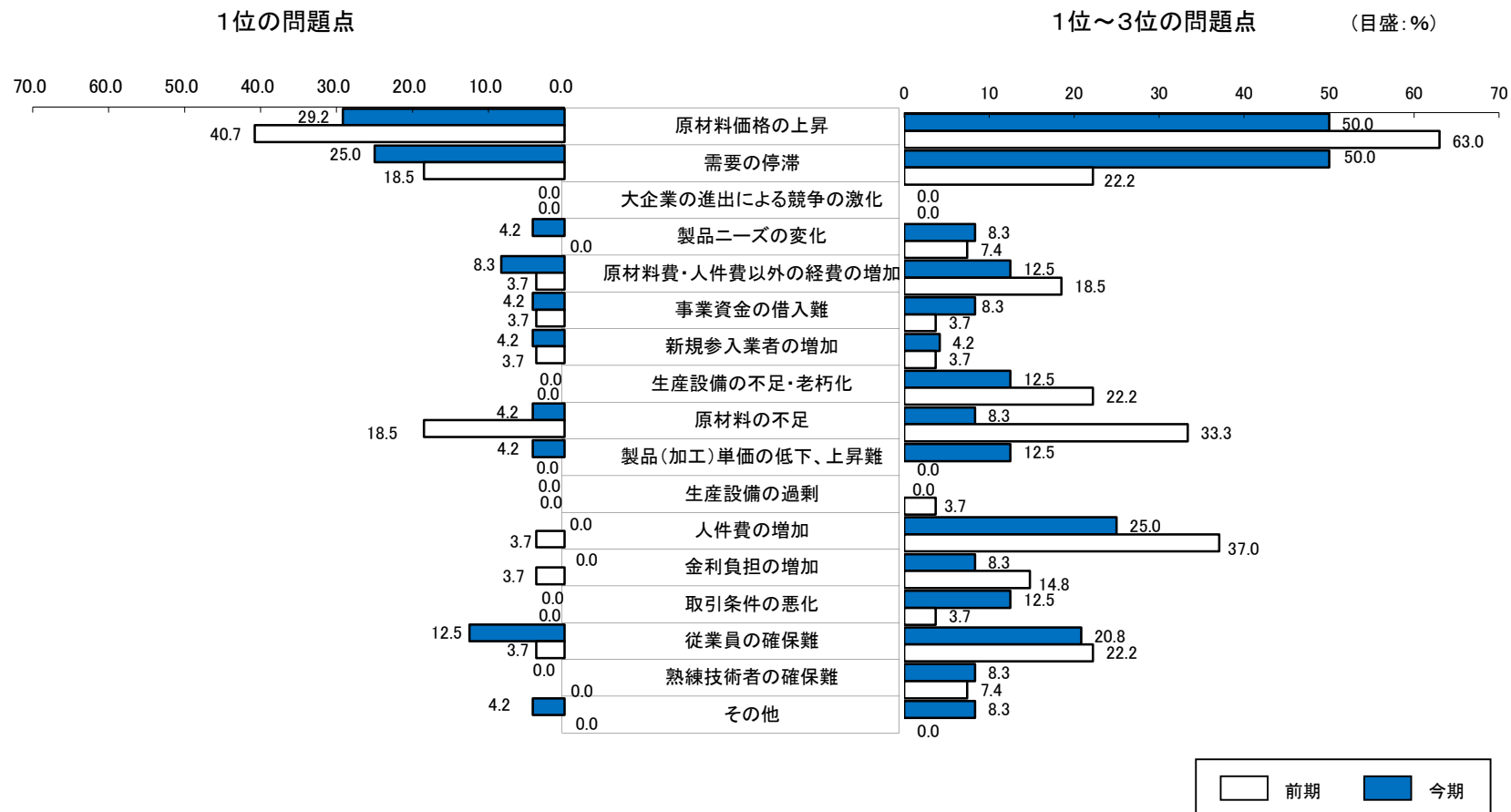
(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

製造業の推移

経営上の問題点

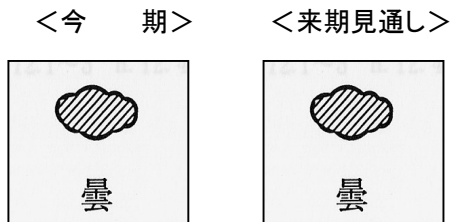
岩手県 製造業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)



建設業の推移

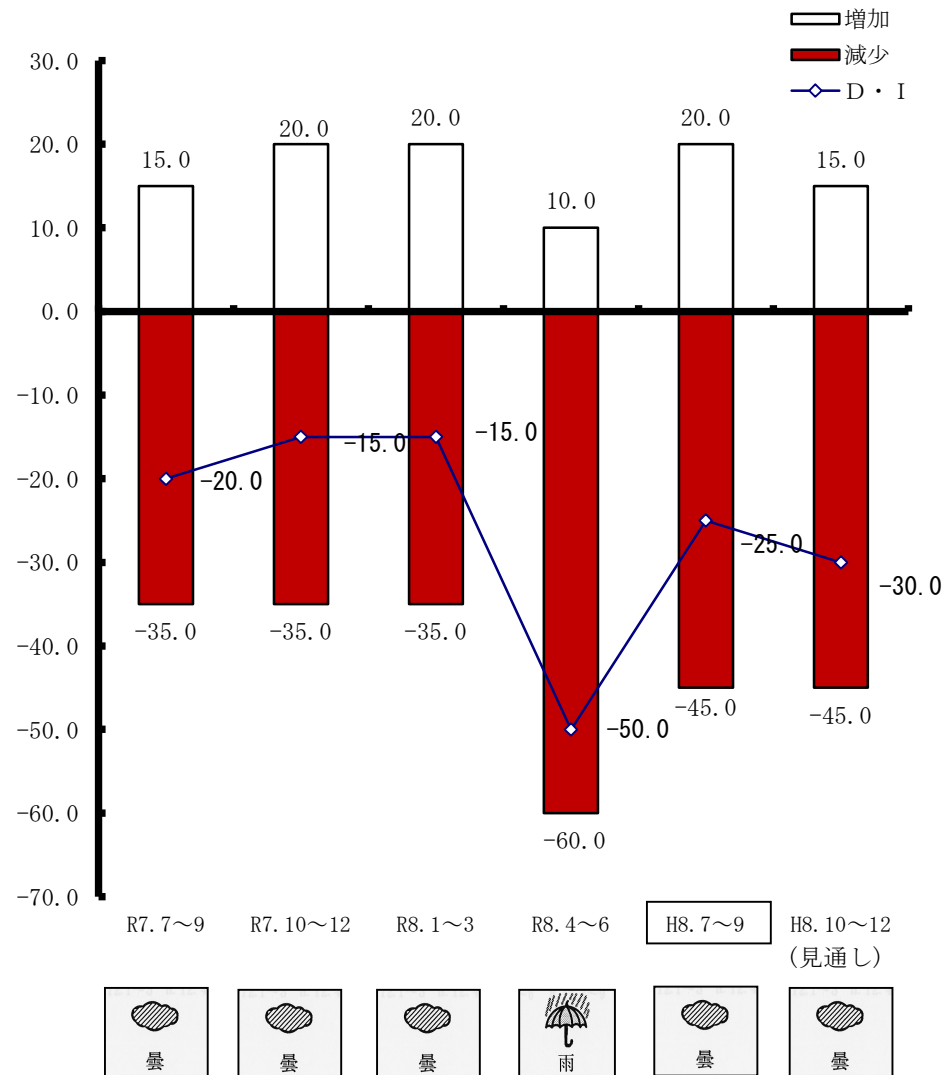
売上高



前期大幅に低下していた建設業の売上高D・Iは、今期は大きく上昇しました。今期は売上高が増加した企業割合が10.0ポイント増加し、売上高が減少した企業割合が15.0ポイントの大幅な減少となったため、売上高D・Iは25.0ポイントの大幅な上昇となり、景況天気図も雨から曇りへと変化しています。

来期は、売上高の増加を予想する企業の割合は減少に転じ、売上高の減少を予想する企業が今期と横ばいとなるため、売上高D・Iは低下してマイナス幅を拡大することが予想されています。

※建設業の売上高は完成工事高



採算

<今 期>

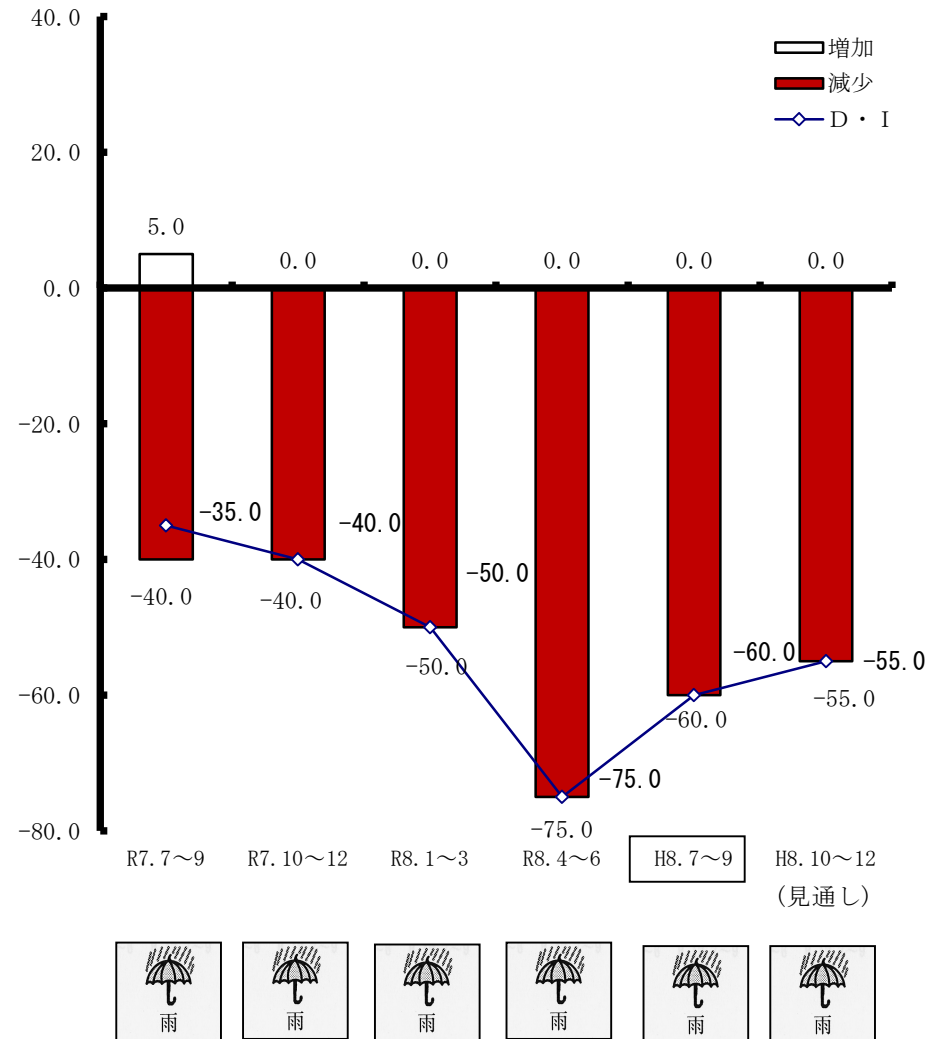


<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業の割合が4期連続してゼロにとどまったものの、採算が悪化した企業の割合が減少したことから、採算D・Iは15.0ポイント上昇して△60.0までマイナス幅を縮小しました。

来期は、採算の改善を予想する企業が引続きゼロにとどまるものの、採算の悪化を予想する企業が減少することから、採算D・Iは今期に引続き改善する見通しとなっています。



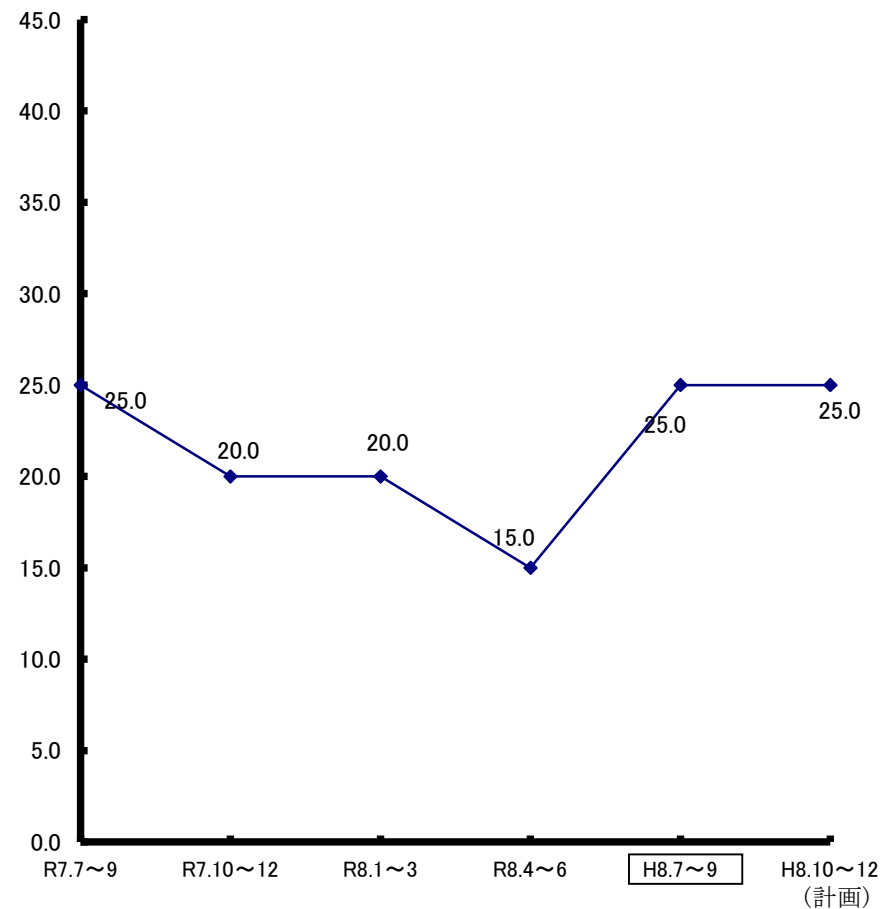
建設業の推移

設備投資

建設業において設備投資を実施した企業数の割合は前期より10.0ポイント増加し、25.0まで上昇しました。

来期は設備投資を実施する企業数の割合は今期と横ばいのレベルにとどまることが予想されます。

(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

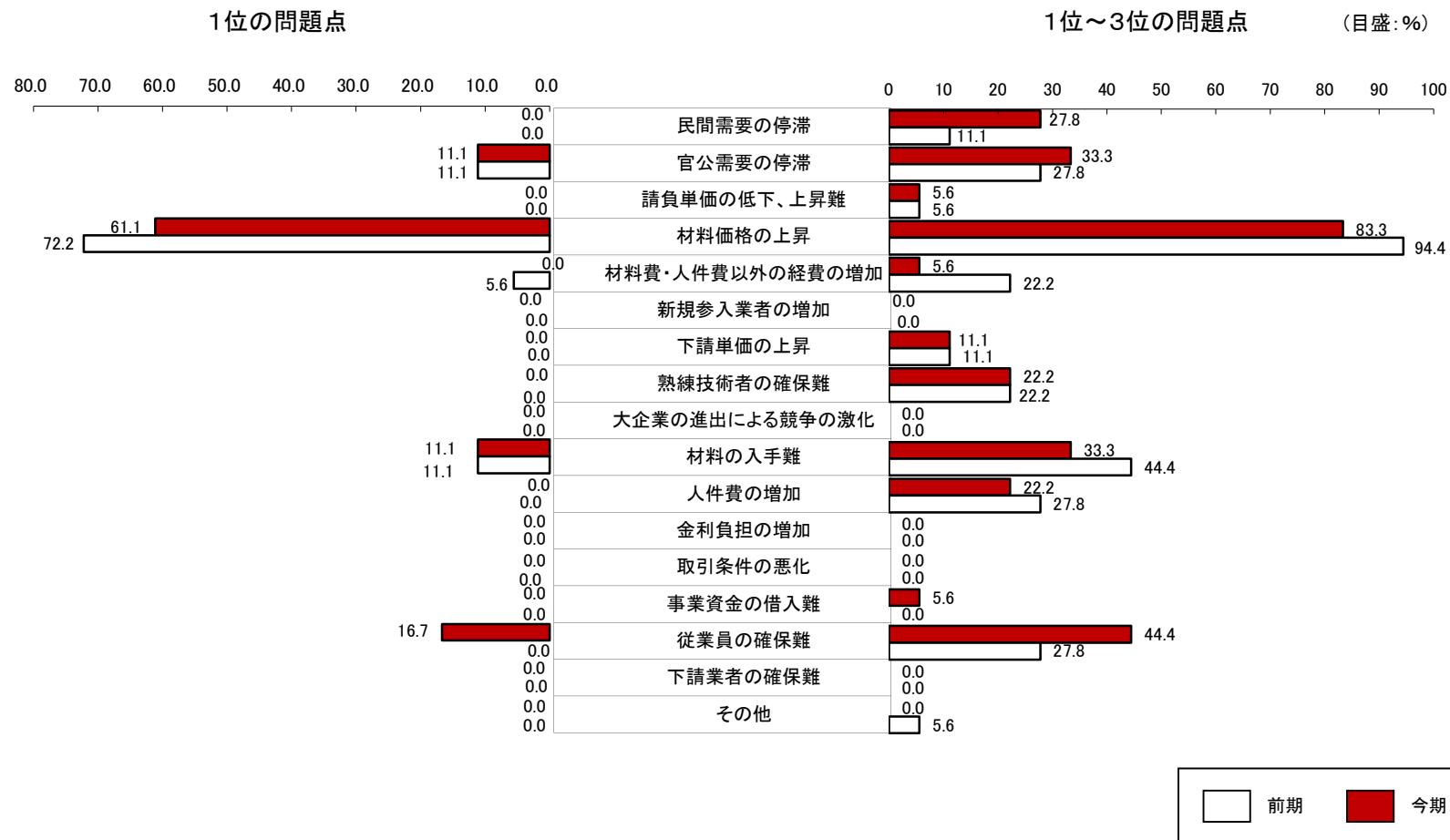


建設業の推移

経営上の問題点

岩手県 建設業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)



小 売 業 の 推 移

売 上 高

<今 期>

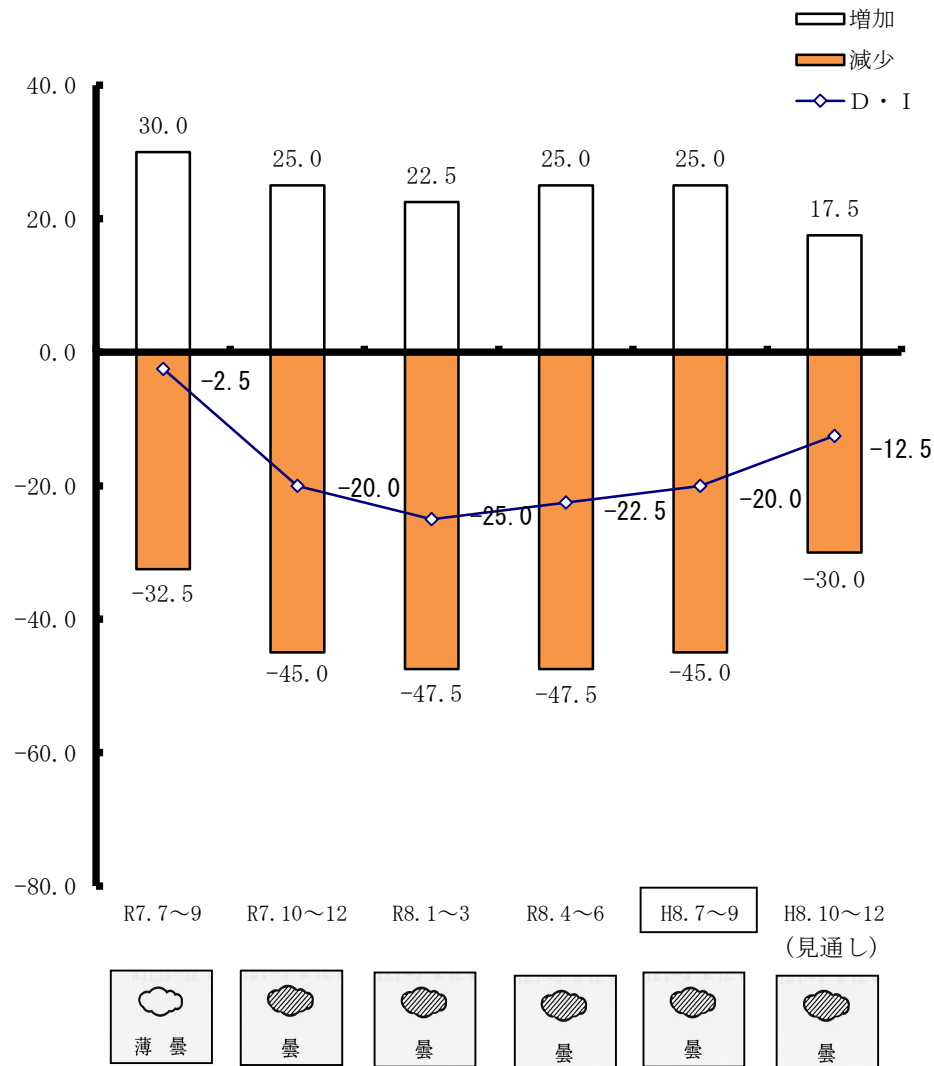


<来期見通し>



今期は、売上高増加企業の割合は前期と同レベルにとどまったものの、売上高減少企業の割合が前期よりわずかに減少したことから、売上高D・Iは2.5ポイントの上昇となり△20.0となりました。

来期は、売上高の増加を予想する企業割合は減少に転じ、他方、売上高の減少を予想する企業割合が今期より大きく減少することから、売上高D・Iは上昇する見通しです。



小 売 業 の 推 移

採 算

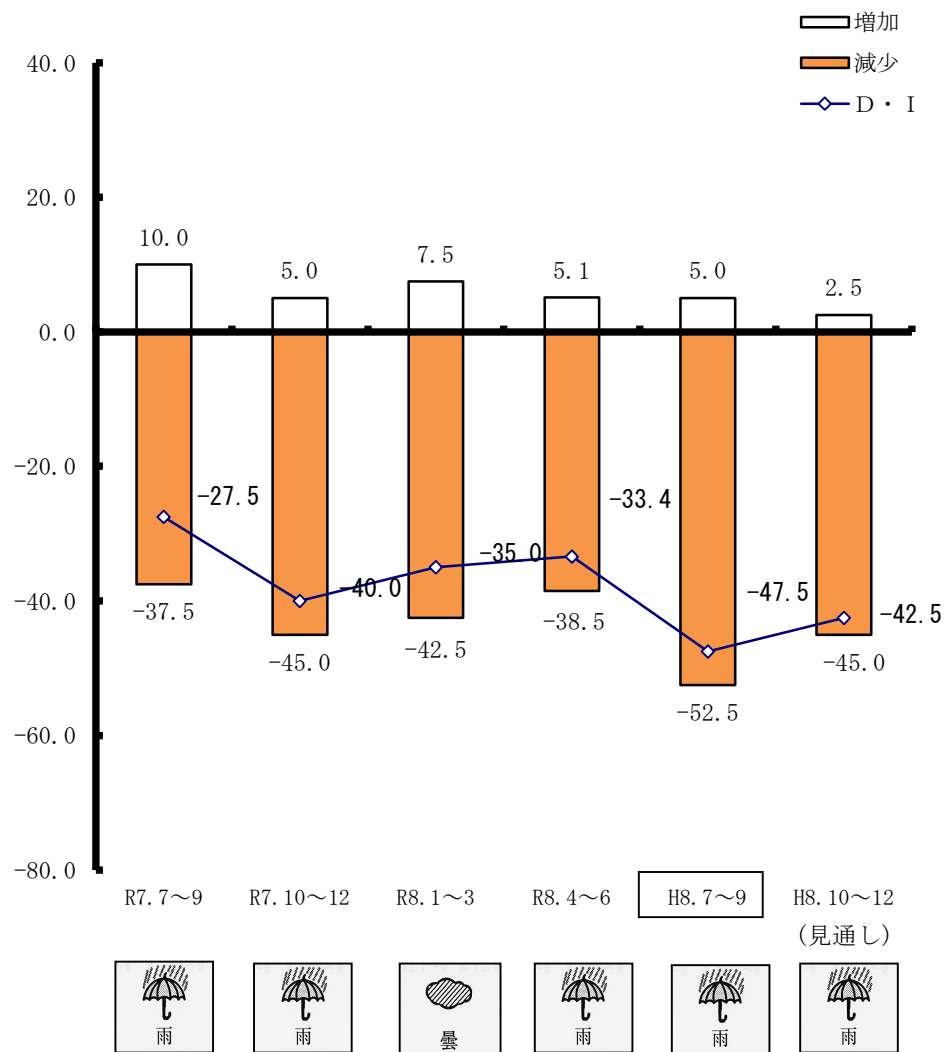
<今 期>

<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業の割合が前期とほぼ横ばいとなり、採算が悪化した企業割合が14.0ポイント増加したことから、採算D・Iは14.1ポイント低下して△47.5まで大きく悪化しました。

来期は、採算の好転を予想する企業割合は減少する一方、採算の悪化を予想する企業割合が減少することから、採算D・Iは回復に転じる見通しです。

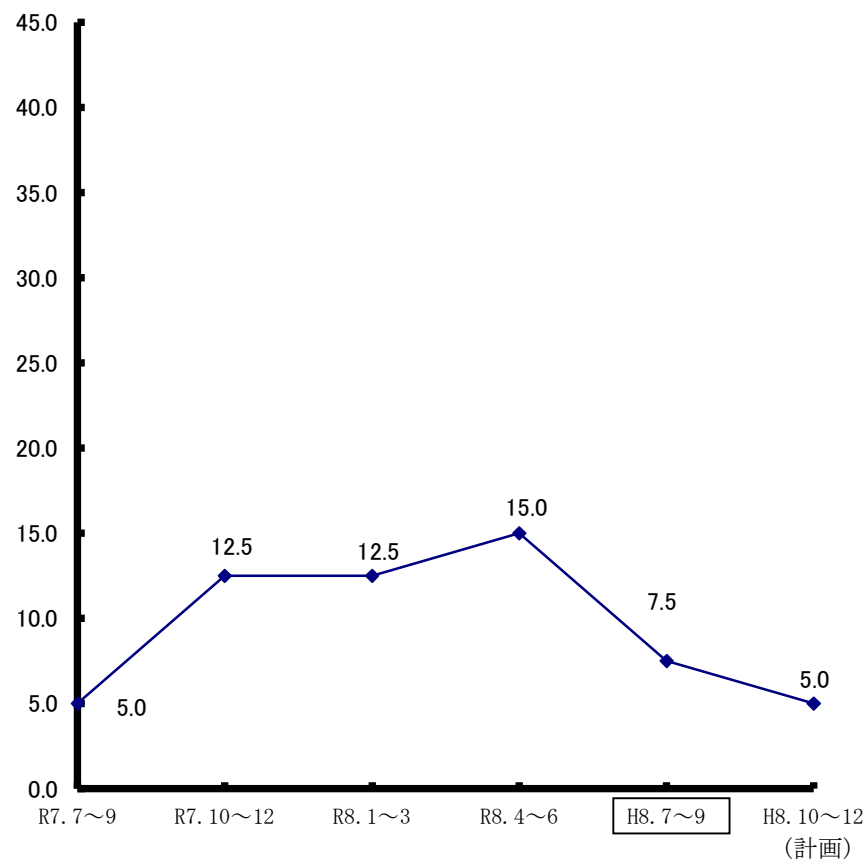


小 売 業 の 推 移

設 備 投 資

小売業において設備投資を実施した企業数の割合は3期連続して増加しておりましたが、今期は減少に転じ、7.5となりました。

来期は、設備投資を計画している企業数の割合は引き続き減少し、5.0レベルにとどまる見通しです。



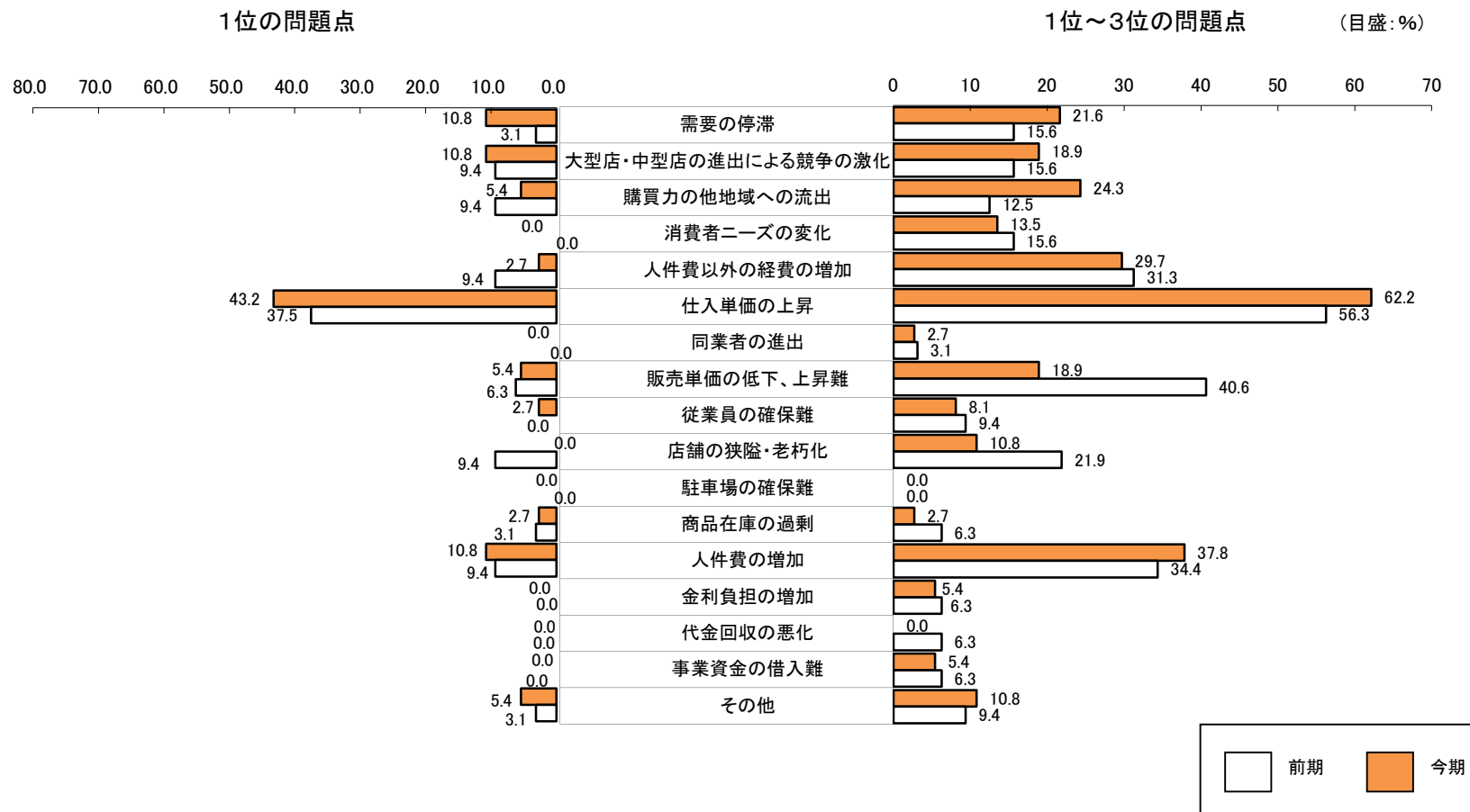
(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

小 売 業 の 推 移

経営上の問題点

岩手県 小売業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)



サービス業の推移

売上高

<今 期>

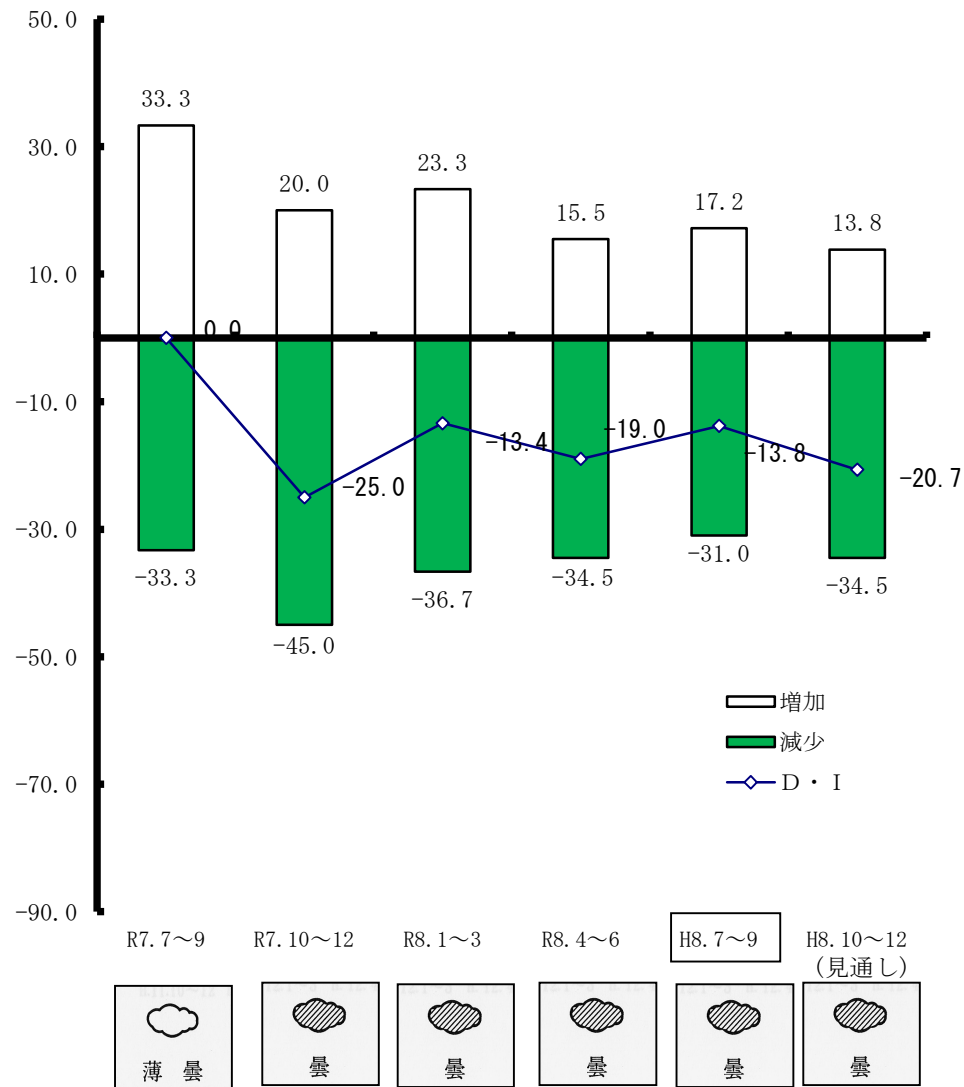


<来期見通し>



今期は売上高減少企業の割合が1.7ポイント増加し、売上高増加企業の割合が3.5ポイント減少したことにより、売上高D・Iは5.2ポイントの上昇となり△13.8までマイナス幅を縮小しました。

来期は、売上高増加を予想する企業の割合が減少し、売上高減少を予想する企業割合が増加することから、売上高D・Iは低下に転じることが予想されています。



サービス業の推移

採算

<今 期>

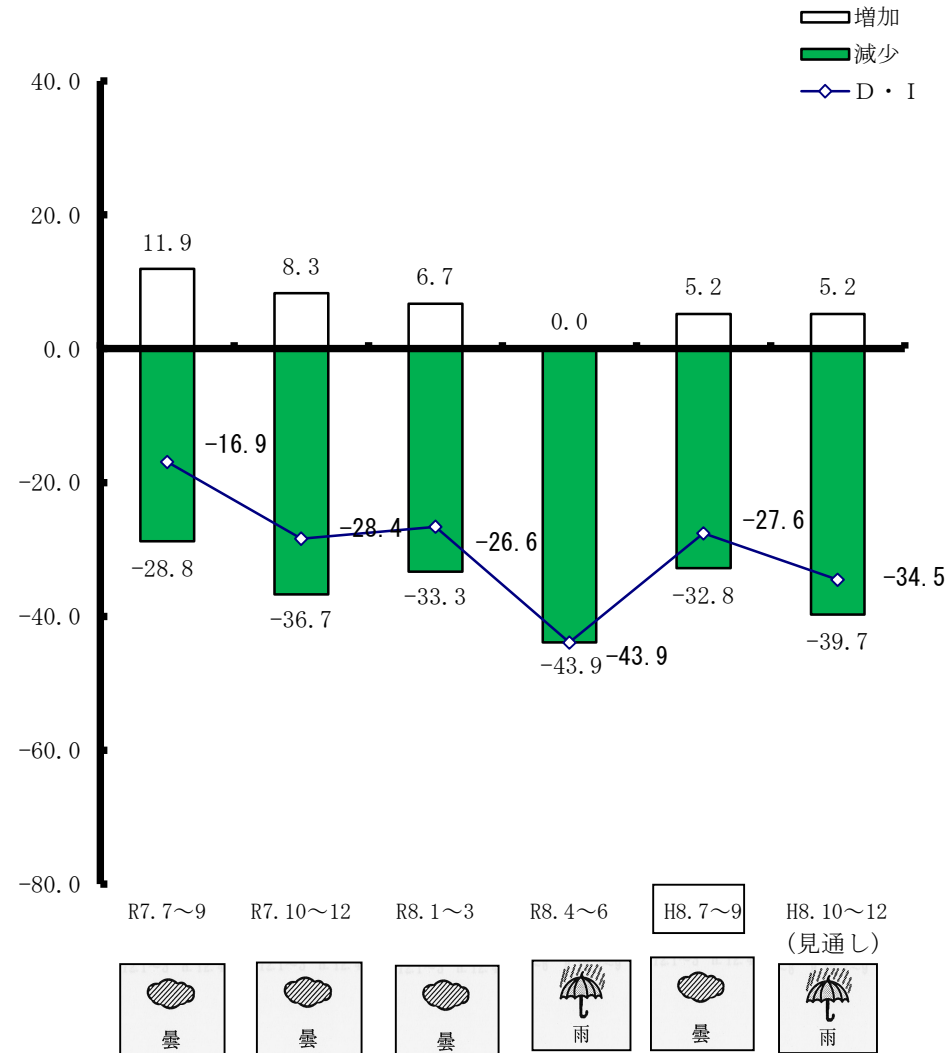


<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業割合が5.2ポイント増加し、また、採算が悪化した企業割合が11.1ポイント減少したことにより採算D・Iは16.3ポイントの大幅な上昇となり、△27.6まで回復しました。景況天気図も雨から曇りへと変化しています。

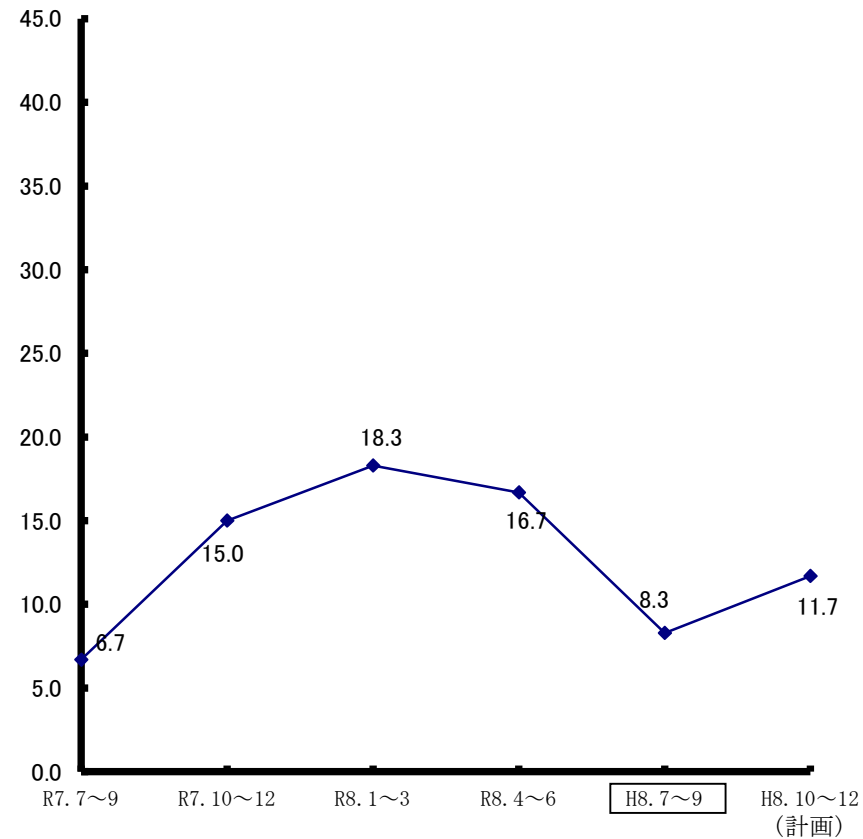
来期は、採算の改善を予想する企業割合が今期と同じレベルにとどまるものの、採算の悪化を予想する企業割合が増加することから、採算D・Iは再び悪化に転じることが見込まれています。



設備投資

サービス業において設備投資を実施した企業数の割合は2期連続の減少となり、8.4ポイント減少して8.3にとどまっています。

来期設備投資を実施する企業数の割合は増加に転じ、11.7程度まで増加する見通しです。



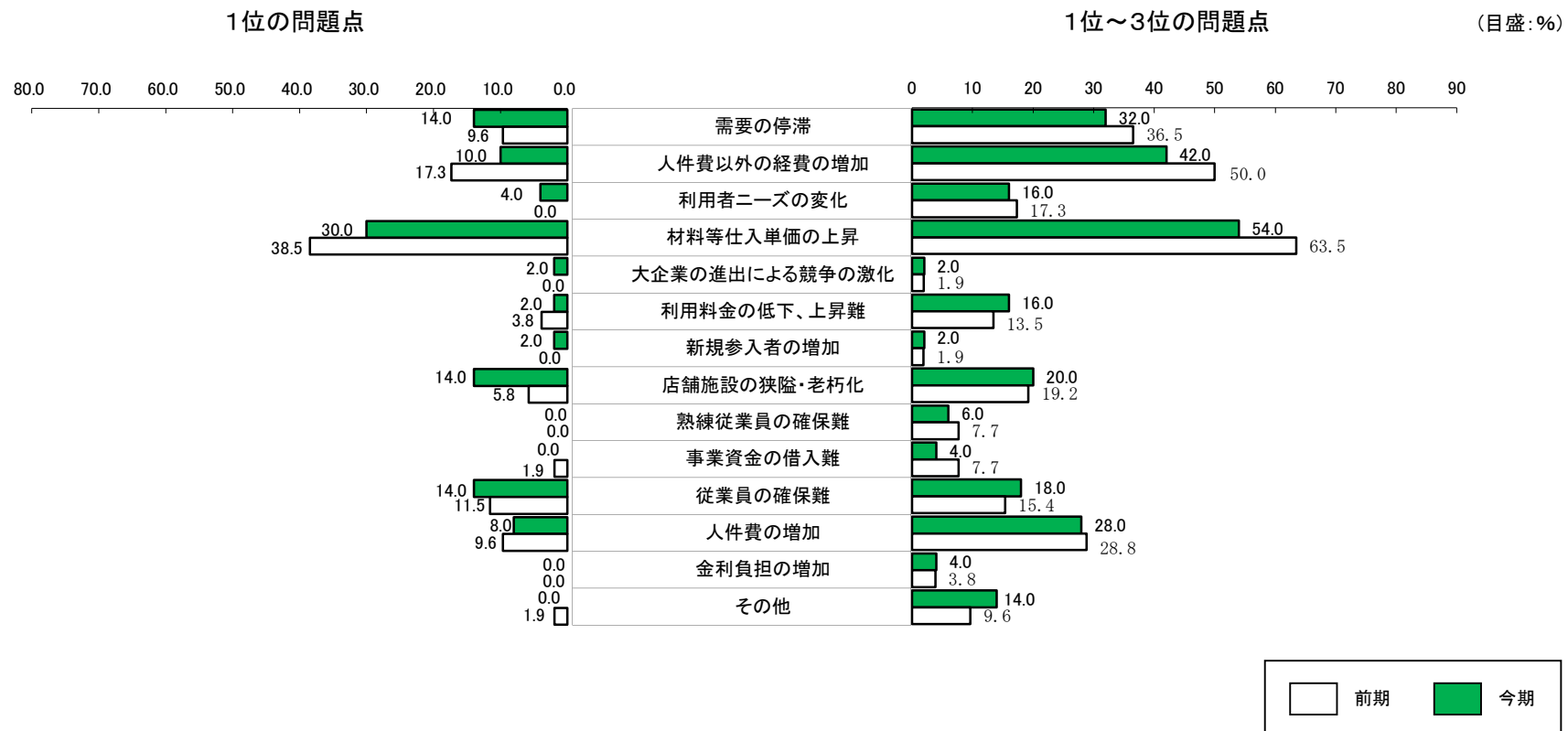
(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

サービス業の推移

経営上の問題点

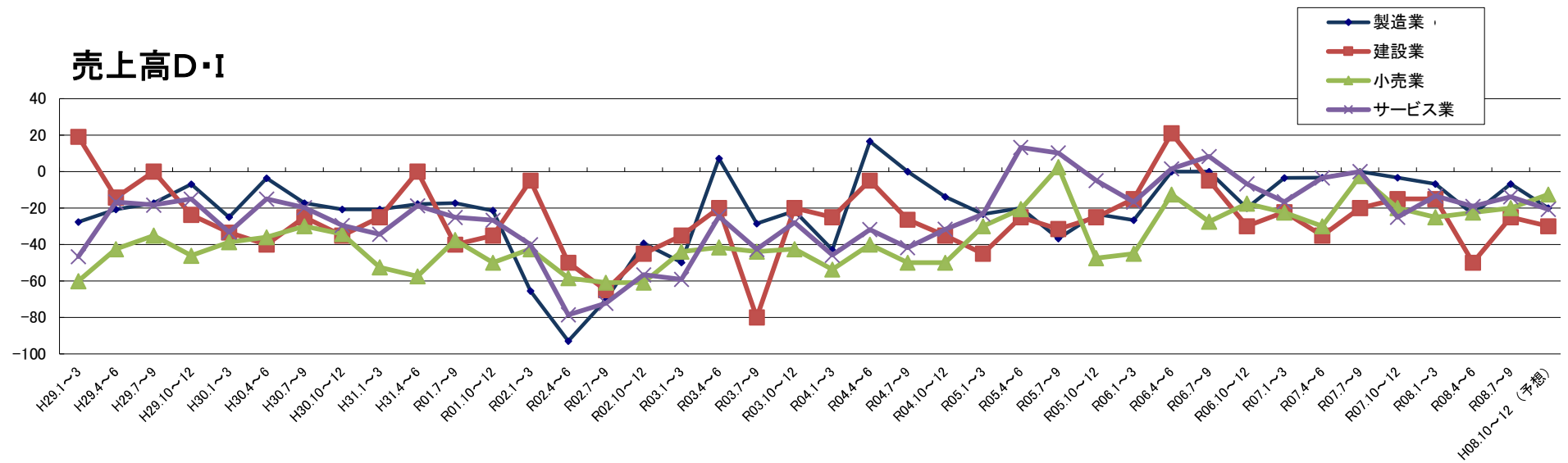
岩手県 サービス業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)

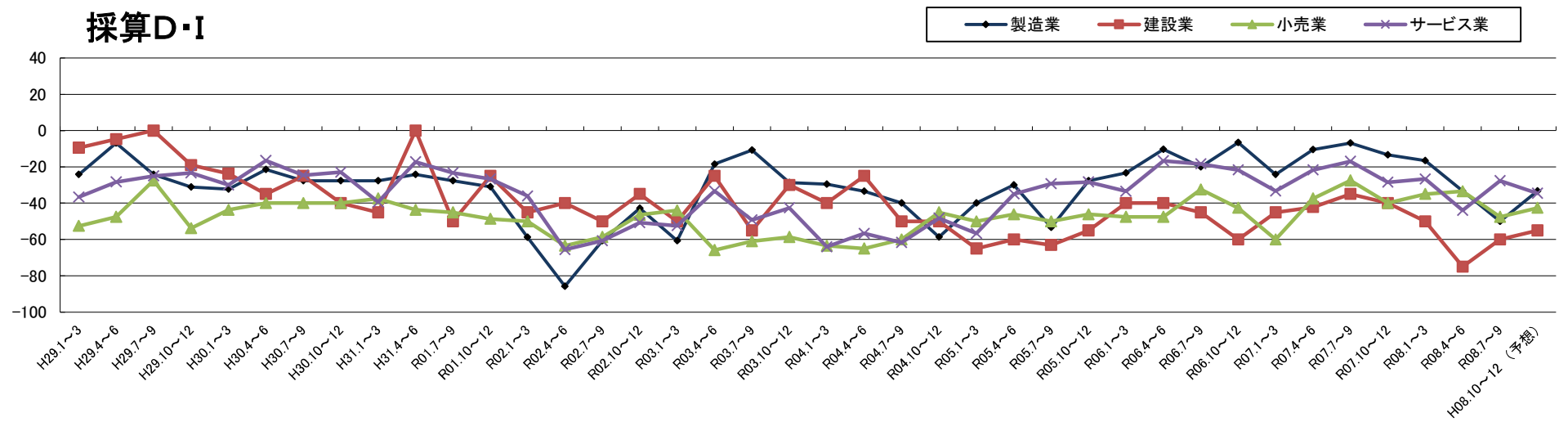


全産業の過去データの推移(過去10年間)

売上高D・I



採算D・I



集 計 資 料

調 査 要 項

1. 調 査 対 象 (1) 対象地区 県内10商工会地区 陸前高田、滝沢市、葛巻町、紫波町、住田町
(商工会名) 大槌、岩泉、軽米町、洋野町、九戸村
- (2) 対象企業数 150 企業
- (3) 回答企業数 150 企業
2. 調 査 対 象 期 間 令和8年7月～9月を対象とし、調査時点は令和8年9月1日としました。
3. 調 査 方 法 (1) 商工会の経営指導員が訪問面接し、聞き取りにより行いました。
(2) 調査対象地区の設定は、商工会地区市町村人口規模別の実態を勘案して行い、調査対象事業の抽出は、業種規模等有意選出により行いました。

4. 対象企業等内訳

業種 \ 項目	対 象 企 業 数	回 答 企 業 数	回 答 率 (%)
製造業 (地域産業)	30 (20.0)	30 (20.0)	100.0
建設業	20 (13.3)	20 (13.3)	100.0
小売業	40 (26.7)	40 (26.7)	100.0
サービス業	60 (40.0)	60 (40.0)	100.0
	150 (100.0)	150 (100.0)	100.0

(注) カッコ内の数字は、構成比 (%) を表す。

5. そ の 他 本報告書中のD・Iとは、ディフュージョン・インデックス (景気動向指数) の略で、各調査項目についての増加 (上昇、好転、長期化) 企業割合と減少 (低下、悪化、短期化) 企業割合の差を示すものであります。